

行政事業レビューシート (文部科学省)

予算事業名	本物の舞台芸術に触れる機会の確保	事業開始年度	平成14年度	作成責任者		
担当部局庁	文化庁	担当課室	芸術文化課	芸術文化課長 山崎 秀保		
会計区分	一般会計	上位政策	芸術文化の振興			
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	文化芸術振興基本法 第24条	関係する計 画、通知等	文化芸術の振興に関する基本的な方針(第2次基本方針) (平成19年2月9日閣議決定)、舞台芸術人材の育成及び 活用について(文化審議会文化政策部会報告)(平成21年 7月31日)			
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度 以内)	次代の文化の担い手となる子どもたちが、優れた舞台芸術を鑑賞し、芸術文化団体等による実演指導、ワークショップ、これらの団体等との共演に参加し、優れた舞台芸術に触れる機会を提供することにより、芸術を愛する心を育て、豊かな情操を養うとともに、優れた才能の芽を育て、将来の観客層の育成を図る。					
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	対象:小学校・中学校・中等教育学校・特別支援学校の児童・生徒 文化庁が優れた舞台芸術(オーケストラ、オペラ、バレエ、演劇等)団体を選定し、学校において事前にワークショップや、芸術指導を行い、体育館における本公演では子どもも共演する。 ・個々の芸術団体が文化庁に応募し、文化庁が対象となる芸術団体の優れた公演内容を選定。 ・選定した公演を学校に提示し、学校は希望する公演を選び申請。 ・文化庁が全国を10ブロックに分け、芸術団体と学校とをマッチングし、巡回公演を設定。					
実施状況	平成21年度実施状況 ・実施公演団体数 105機関 ・実施公演数 1,344公演 ・参加者総数 353,456人 〔内訳〕児童生徒数 291,851人、保護者数 36,994人、教員 24,611人					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度 ※注1	23年度要求
	予算額(補正後)	3,293	3,491	3,804	—	—
	執行額	3,292	3,536	3,803		
	執行率	100.0%	101.3%	100.0%		
	総事業費(執行ベース)	3,292	3,536	3,803		
自己点検	支出先・ 使途の把 握水準・ 状況	公演実施団体及び開催校の両者から実施報告書により事業実施の報告を受けるほか、芸術団体を選定する企画委員会委員や文化庁職員等で、平成21年度においては47公演の実施状況の確認(学校における準備状況、児童生徒の反応、公演団体に対する評価等)を行い、改善点及び改善に向けての提言を受けている。 また、委託先から提出される業務報告書において、支出先・使途を把握し、委託料の使用状況や事業目的との整合性について確認を行っている。				
	見直しの 余地	平成20年度に学校に対して実施したアンケートでは、事業実施により、子どもたちが「豊かな感性、創造性を育むことが出来た」とする回答が95%を超えるなど、学校現場から高く評価されている。子どもたちが本物の舞台芸術に直接触れる効果は大きく、その意味において成果は十分に上がっているものとする。 今後は、学校現場からのニーズにきめ細かく対応できるよう、複数の小規模校が合同で開催することを促進したり、スケジュールを前倒しすることで決定の早期化を図る。また、子どもたちに優れた舞台芸術の鑑賞機会をより多く提供するため、優れた芸術団体の複数年度にわたる採択方法を検討し、レベルの高い巡回公演の拡充を図る。 複数者が応募できるよう、応募条件等の見直しを検討する。				
予算 監 視 の 効 率 化	当該事業については平成21年度限りで廃止、効率的な執行を図るため「学校への芸術家派遣」(No.0458の一部)と統合の上、平成22年度より新たに「子どものための優れた舞台芸術体験事業」として再構築している。					
補 記	※注1) 本事業は平成21年度をもって廃止。平成22年度からは、効率的な執行を図るため学校への芸術家派遣と統合し、子どものための優れた舞台芸術体験事業に再構築して計上					

文化庁  
3, 803百万円

諸謝金	0.9百万円	} を含む
職員旅費	0.3百万円	
委員等旅費	2百万円	
会議費	0.1百万円	

文化庁が優れた舞台芸術（オーケストラ、オペラ、バレエ、演劇等）団体を選定し、学校において事前にワークショップや、芸術指導を行い、体育館における本公演では子ども共演する。



〔公募・委託〕

A. (社)日本芸能実演家団体協議会  
3, 801百万円

子どもたちに優れた舞台芸術の鑑賞や共演の機会を提供するとともに、芸術文化団体等による実演指導、ワークショップを実施するほか、その業務の連絡調整及び執行に必要な事務を行う。



〔再委託〕

B. 芸術文化団体(全105機関)  
3, 775百万円

文化庁が決定した開催校において、児童・生徒に対し、公演に関するワークショップ及び鑑賞指導を行うとともに、事前の実演指導を行い、優れた舞台芸術の鑑賞や実演に参加させる。

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位:百万円)

**費目・使途**  
 (「資金の流れ」  
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。使途と費目の双方で実情が分かるように記載)

A. (社)日本芸能実演家団体協議会			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
外部委託	本公演及び実演指導、ワークショップに要する経費	3,775			
旅費	実態調査旅費	10			
人件費	職員及び臨時職員、管理者	9			
印刷製本費	報告書、パンフレット印刷費等	4			
その他	消耗品費及び通信運搬費等	1			
一般管理費		2			
計		3,801	計		0
B.(一財)東京ニューシティ管弦楽団			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
公演費	ワークショップ及び本公演に要する出演費、音楽費、文芸費、運搬費	64			
旅費	ワークショップ及び本公演に要する旅費	42			
一般管理費		11			
計		117	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

## 「複数支出先ブロック」の支出先一覧(上位10機関)

ブロックB:平成21年度本物の舞台芸術体験事業

	支出先	支出額(百万円)
1	(一財)東京ニューシティ管弦楽団	117
2	(一財)大阪シンフォニカー協会	115
3	(一社)セントラル愛知交響楽団	113
4	(財)神奈川フィルハーモニー管弦楽団	108
5	(財)スターダンサーズ・バレエ団	106
6	(財)日本オペレッタ協会	94
7	(特活)中部フィルハーモニー交響楽団	87
8	(財)オペラアーツ振興財団	79
9	(社)山形交響楽協会	76
10	(社)大阪フィルハーモニー協会	73
	その他	2,807
合計		3,775